

## 同時資料提供

大阪科学・大学記者クラブ  
大阪教育記者クラブ  
南大阪記者クラブ  
関西レジャー記者クラブ

## テーマ展示「標本を未来に引き継ぐ ～新収資料展2022～」を開催します



大阪市立自然史博物館では、2022年7月16日（土）から9月25日（日）まで、テーマ展示「標本を未来に引き継ぐ ～新収資料展2022～」を開催します。

当館では、常設展で展示されているものだけでなく、収蔵庫に190万点を超える標本を収蔵しています。これらの標本は博物館学芸員が収集したものだけでなく、アマチュア研究者をはじめとした市民からの寄贈や施設の閉鎖により廃棄される可能性のあったものをレスキューすることで加わったものもあります。博物館に収集された標本群は、展示に用いられるだけでなく、研究や教育など様々な目的で使用され、これらを社会の共有財産として未来に引き継ぐことが博物館の使命のひとつでもあります。今回開催するテーマ展示では、主に2019年以降に当館で収集された標本を展示し、その標本の意義と博物館での資料収集活動について紹介します。主な展示物として、2020年に閉園となった大阪府泉南郡岬町のみさき公園の動物標本、藤田俊治氏の収集による岩石・化石コレクション、東勇太氏による冬虫夏草コレクションなどを展示します。

## I. 開催概要

1. 名称 テーマ展示「標本を未来に引き継ぐ ～新収資料展2022～」
2. 会期 2022年7月16日（土）～9月25日（日）
3. 開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
4. 休館日 月曜日（祝休日の場合は開館し、翌平日休館。ただし8月1日・8日・15日は開館）
5. 会場 大阪市立自然史博物館 本館1階 ナウマンホール  
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23  
TEL：06-6697-6221 FAX：06-6697-6225  
HP：http://www.mus-nh.city.osaka.jp/  
Osaka Metro御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m  
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m

6. 観覧料 常設展の入館料でご覧になれます。  
入館料：大人300円、高大生200円  
※中学生以下、障がい者手帳など持参者（介護者1名を含む）、  
大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）。30人以上の団体割引あり。  
※特別展「大地のハンター展」のチケットで本館常設展（当日限り）も合わせて  
観覧いただけます。

## II. 主な展示

### ○みさき公園所蔵の動物標本

みさき公園は、大阪府泉南郡岬町にあった遊園地と動物園の複合施設でしたが、2020年3月にその歴史に幕を閉じました。閉園の際に、みさき公園で長年にわたって蓄積してきた飼育動物の骨格を中心とする動物標本320点以上を寄贈いただきました。今回はその一部を展示します。

左：シマウマ頭骨、右：イルカ頭骨



### ○藤田俊治氏採集の岩石・化石コレクションおよび氏が作成した立体地図模型

氏が生前に採集された岩石・化石コレクションと、ファイバーボードや厚紙で作られた立体地図模型を氏の親族から寄贈いただきました。

岩石・化石標本は、主に岐阜県・山口県の古生代の地層、大阪府の白亜紀の地層や京都府・奈良県・岡山県の新生代の地層などから採集されたもので、石灰岩や礫岩、脊椎動物化石・軟体動物化石・植物化石などからなります。これらの中には同一種の標本が多く、しかも非常に丁寧にクリーニングされているため、種内変異などの調査研究に用いることができると考えられます。その他、石灰岩製の什器などの購入品も含めて全体の標本数は709点に及びます。

立体地図模型は、大阪府周辺の地形のほか、日本アルプスや島しょ、さらには海外の地形も含まれています。全部で95点あり、サイズも様々で、底辺が40×40cm近い大型のものから、名刺サイズのものもあります。また、未完成のものも含まれており、その制作過程がよくわかります。



左：和泉層群の二枚貝化石。当館でも化石さがし行事を行っている泉佐野市から採集された標本が多数含まれている。非常に丁寧にクリーニングされており、化石の形態や表面装飾がよくわかる。

右：国土地理院発行の地形図を元に作成された立体地図模型。厚みのある素材が使われており、地形の凹凸がよくわかる。この模型では、「二上山」とその周辺の地形が再現されている。



### ○東勇太冬虫夏草コレクション

咲くやこの花館「POPなきのこ展」や京都府立植物園「関西菌類談話会きのこ展」などで展示された東勇太冬虫夏草コレクションを当館に寄贈いただきました。

昆虫に寄生し、子実体を形成する謎めいた生態を持つ菌類、総称として「冬虫夏草」あるいは「虫草」などと呼ばれるこれらのきのこは、多くの人の関心を集めています。

しかし、地道な観察と丹念な採集を必要とする冬虫夏草の標本は少なく、その保全のために必要な基礎的な情報も限られています。東勇太氏により採集された標本は、環境情報も豊富な一方、丁寧な採集によりその種の特徴が見事に保存され、図鑑や論文のリファレンス情報にもなっている学術的にも重要な標本です。

左：様々な「冬虫夏草」、右：カメムシタケ。



## ○ハチ類標本

最近当館のコレクションに加わったハチ類標本を紹介します。

### ・西田悦造(故人)コレクション

西田悦造氏は、学生時代はミノガの幼虫の寄生バチ相の研究を、その後もトガリヒメバチを中心としたヒメバチの研究を進められました。その後石垣島を中心とした南西諸島の昆虫に興味をもち、たびたび調査に訪れ多くの標本を収集されています。三重の昆虫相の解明にも熱心にとり組まれました。これらからなる14,250点のコレクションです。

### ・大草伸治コレクション

岐阜県、愛知県を中心に、全国から収集された18,150点のハチコレクションです。対象はハチ目全体にわたっていますが、特に昔から取り組まれていたヒメバチ科、ハナバチ類の標本が充実しています。いずれの分類群もよく同定・整理が進められていて参照標本としてとても有用なものです。

### ・星型のマユをつくるホシガタハラボソコマユバチ

このハチは寄主であるスズメガに多寄生しますが、脱出してマユをつくるときに、とても目立つ金平糖のような星型の集合体を作ります。当時当館の外来研究員であった藤江隼平学芸員によって研究され、2021年に新種として記載されました。

左：ヒマラヤルリモンハナバチ（西田悦造コレクション）、右：キンモウアナバチ（大草伸治コレクション）



## ○「大阪湾で漁獲されたイタチザメ」

2020年9月14日に兵庫県神戸市沖で漁獲されたイタチザメの幼魚の標本です(全長約90cm)。イタチザメは、世界中の熱帯～温帯域に分布する人食いザメの1種で、背中の模様から英名でTiger Sharkと呼ばれます。大阪湾では、2015年に初めて幼魚が採集され、2020年に幼魚が2個体採集されました。



## ○福徳岡ノ場からの漂着軽石

2021年8月、東京から約1300km南に位置する海底火山「福徳岡ノ場(ふくとくおかのば)」は大噴火を起こし、大量の軽石が噴出しました。噴出した軽石は、海面を漂い、海流や風などによって運ばれ、数ヶ月後には沖縄から関東までの日本沿岸各地、遠くは海外まで流れ着きました。沿岸部に流れ着いた大量の軽石は、船舶の運航や観光産業などに大きな影響を与えました。一方でこの軽石は、福徳岡ノ場でどのような噴火が起こったのか、どのように海岸まで流れ着いたのかなど、大きな地球の営みを考えるきっかけを与えてくれます。

奄美大島に漂着し採集された福徳岡ノ場からの軽石



## Ⅲ. 関連行事

### <ギャラリートーク>

展示を担当したさまざまな分野の学芸員が、それぞれのテーマについて展示解説を行います。

日 時：7月30日(土)、8月6日(土)、8月11日(木・祝)、8月13日(土)、8月20日(土)、9月3日(土)、9月10日(土) 各日午前10時～(15～20分程度)

担当分野：7月30日(土)地質、8月6日(土)貝類、8月11日(木・祝)魚類、8月13日(土)化石、8月20日(土)昆虫、9月3日(土)菌類、9月10日(土)哺乳類

場 所：テーマ展示会場(自然史博物館 本館 ナウマンホール)

集 合：参加希望者は開始5分前までにテーマ展示会場入口付近に集合してください

対 象：どなたでも参加できます

参 加 費：無料(ただし常設展入館料が必要)

そ の 他：会場混雑時には、やむなく中止となる場合がありますのでご了承ください。テーマや担当学芸員は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

### ■広報に関する問合せ

大阪市立自然史博物館 総務課(広報担当:山上)

TEL:06-6697-6222 FAX:06-6697-6225 e-mail:k-yamagami@ocm.osaka